

4-5

意識改革

認知症サポーター

養護老人ホームとオレンジリング

～利用者とともに認知症サポーターへの挑戦～

養護老人ホーム 偕生園

| | |
|---------------------|---|
| 発表者：援護課 生活相談員 恩田 拓樹 | 共同研究者：援護課 副主任 福吉 豪 |
| 所在地：東京都昭島市田中町2-25-3 | |
| TEL：042-541-1236 | E-mail：kaiseien-soudanin@doho-gojyokai.com |
| FAX：042-546-8284 | URL：http://doho-gojyokai.com/2kaiseien.html |

| | |
|----------------------------|---|
| 今回の発表の施設 またはサービスの 概要 | 社会福祉法人同胞互助会を母体とする養護老人ホーム偕生園は、昭和34年3月に定員50名の施設として開設し、本年3月で開園50周年を迎えました。現在は140名となり、主に利用者の日常生活における生活相談や支援を行なっています。 |
|----------------------------|---|

| | |
|---|--|
| <p>〈取り組んだ課題〉</p> <ul style="list-style-type: none">○ 認知症の方と認知症でない方との間で生じる摩擦の軽減。○ 利用者が利用者を支えていく仕組みの構築。○ 利用者の意識改革。○ 認知症について利用者が正しく理解をする。 <p>〈具体的な取り組み〉</p> <ul style="list-style-type: none">○ 職員会議、業務会議、園長・相談員会議で検討。○ 職員が認知症サポーター養成講座を受講し、職員全員がサポーターの証である「オレンジリング」を常に身に付け、利用者の興味・関心を惹く。○ 月1回行なわれる茶話会（利用者向け懇談会）で認知症サポーターについての説明・宣伝を実施。○ 利用者へ認知症サポーター養成講座受講前の認知症についての「理解」と「感情」をアンケート調査。○ 利用者向けに認知症勉強会を実施。○ 昭島市と地域包括支援センターの認知症サポーターキャラバンメイトと連携し企画。○ 法人の研修検討委員会で各施設長・課長・相談員等と協議し、年2回法人で行なわれる地域住民向けフォーラムにて認知症サポーター養成講座を実施。利用者へも大々的に宣伝し参加を促す。○ 施設内で再度、利用者向けに認知症サポーター養成講座を実施。認知症についてさらに多くの利用者へ理解を求める。 | <p>〈活動の成果と評価〉</p> <ul style="list-style-type: none">○ 利用者へ認知症サポーター養成講座受講後、再度アンケート調査を実施したところ、認知症の「理解」と認知症に対して抱いている「感情」に変化が見られた。○ 「認知症の方へどのように接したら良いのか参考になった。」「認知症について今まで何も知らなかった。明日はわが身と思いを付けていきたい」といった感想が多く寄せられ、認知症についての関心が高まった。○ 認知症サポーター養成講座受講者の認知症利用者へ対する態度・対応に変化が見られ、以前より口論等が減った。 <p>〈今後の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none">○ 更なる認知症サポーターの受講者の拡大○ 認知症サポーターとそうでない利用者間での摩擦○ 認知症サポーターという意識の継続○ 『ともに生きる』ということ <p>〈参考資料など〉</p> <p>厚生労働省：「認知症を知り地域をつくる」キャンペーン 認知症サポーター100万人キャラバン http://www.caravanmate.com/</p> |
|---|--|

【メモ欄】